

平成 30 年度 全国学力・学習状況調査結果の概要について

可児市教育委員会

1 調査の概要

(1) 調査の目的

- ・全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上のため，児童生徒の学力・学習状況を把握・分析することにより，教育の結果を検証し，その改善を図る。
- ・可児市教育委員会，学校等が全国的な状況との関係において，自らの教育の結果を把握し，その改善を図る。
＊本調査の結果は児童生徒の学力の特定の一部を示すものであり，この結果のみで児童生徒の学力の全体を判断できるものではありません。

(2) 対象学校・児童生徒

- ① 可児市内全公立学校 【11 小学校（6 年生） 5 中学校（3 年生）】

(3) 調査内容

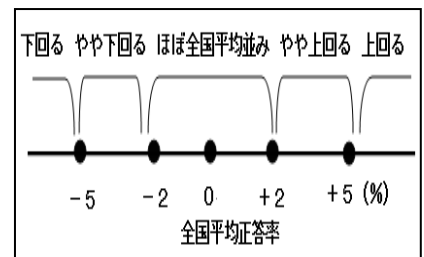
- ① 教科に関する調査（国語，算数/数学，理科） ② 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

(4) 調査日 平成 30 年 4 月 17 日（火）

2 可児市における調査結果の概要

(1) 可児市の傾向について

- 全体的には，小学校は，ほぼ全国平均並みでした。
 - ・小学校国語 A（主として知識）では，ほぼ全国平均並みであった。
 - ・小学校国語 B（主として活用）では，ほぼ全国平均並みであった。
 - ・小学校算数 A（主として知識）では，全国平均をやや下回った。
 - ・小学校算数 B（主として活用）では，全国平均をやや下回った。
 - ・小学校理科では，全国平均をやや下回った。
- 全体的には，中学校は，全国平均をやや下回りました。
 - ・中学校国語 A（主として知識）では，全国平均をやや下回った。
 - ・中学校国語 B（主として活用）では，全国平均をやや下回った。
 - ・中学校数学 A（主として知識）では，全国平均をやや下回った。
 - ・中学校数学 B（主として活用）では，全国平均をやや下回った。
 - ・中学校理科では，全国平均をやや下回った。
- 中学 3 年生における 3 年前の調査結果（小学 6 年生）と比べてみると，国語 A（主として知識）は +1.7，国語 B（主として活用）は +0.9，算数・数学 A（主として知識）は +0.9，算数・数学 B（主として活用）は +1.4，理科は +1.2 と，3 年間で学力が向上している。



(2) 教科に関する調査結果の分析の概要

- 調査項目ごとに，全国と本市を比較すると，よくできている項目と課題となる項目は，ほぼ一致します。
- 課題となる特徴的な設問は，次の 9 点を挙げる可以做到。
 - （「」内は，設問の概要や出題の趣旨 （ ）内は，評価の観点）
 - [小国] A 「学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く」（言語についての知識・理解・技能）
 - [小算] A 「円周率の意味について理解している」（数量や図形についての知識・理解）
 - [小算] B 「示された情報を解釈し，条件に合う時間を求めることができる」（数学的な考え方）
 - [小理] 「ろ過の適切な操作方法を身に付けている」（観察・実験の技能）
 - [中国] A 「語句の意味を理解し，文脈の中で適切に使う」（言語についての知識・理解・技能）
 - [中国] B 「文章の構成や展開について自分の考えをもつ」（読む能力）
 - [中数] A 「数量の大小関係を不等式に表すことができる」（数学的な技能）
 - [中数] B 「事柄が成り立つ理由を構想を立てて説明することができる」（数学的な見方や考え方）
 - [中理] 「オームの法則を使って，抵抗の値を求めることができる」（自然現象についての知識・理解）

<課題解決への手立て>

○基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得

小学校算数 A，中学校国語 A，中学校数学 A では，全国平均をやや下回った結果となりました。これ

は、語句についての理解力不足、計算問題などの数学的な技能が定着していないことが考えられます。辞書や資料などを使ってより語句の理解を図ったり、ワークなどを活用したりするなど、基礎的・基本的な知識及び技能の定着をさらに図ります。また、家庭との連携を図りながら、児童生徒の学習基盤を整えたり、定着状況の見届けを確実に図っていきます。

○主体的・対話的で深い学びのある授業の充実

小学校算数B・中学校数学Bのような問題では、既習したことや様々な情報を活用する力が求められます。日常生活の事象を表やグラフを用いて考察したり、示された情報を関連付け根拠を明確にして記述したりするなど、問題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等をさらに伸ばすような授業改善を図ります。また、児童生徒にとってより深い学びにつながるように、仲間と関わりながら学ぶことができる授業の在り方についてさらに研究を重ね、そして、どの教科においても取り組んでいきます。

(3) 児童生徒質問紙に関する調査の分析の概要

各質問項目に対する回答の割合は、ほとんど全国平均並みでした。その中で、全国平均と比べて、(回答1「当てはまる」回答2「どちらかといえば当てはまる」が、全国平均より特に高かった項目)について、以下に示します。

質問内容	小学校	中学校
【自己について】		
自分には、よいところがあると思いますか	84.7(+0.7)	88.9(+5.1)
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	89.5(+4.2)	87.7(+5.5)
【学習について】		
数学(算数)の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか	81.8(+3.4)	76.9(+6.6)
理科の授業で、自分の考えや考察をまわりの人に説明したり発表したりしていますか	58.9(+4.4)	54.6(+13.2)
家で、学校の授業の予習・復習をしていますか	63.8(+1.2)	71.8(+16.6)
【家庭生活について】		
放課後に家で勉強や読書をしている	73.3(+9.2)	52.3(+10.1)
放課後に家でテレビやビデオ、DVD を見たり、ゲームをしたり、インターネットをしたりしている	83.0(+2.0)	86.1(+8.8)
【地域とのかかわりについて】		
今住んでいる地域の行事に参加していますか	79.4(+16.7)	76.6(+31.0)
地域の人(学校や塾・習い事の先生を除く)に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがありますか	32.7(+7.2)	47.2(+5.6)
地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか	76.6(+14.0)	92.9(+19.3)

ほとんどの児童生徒は、「自分にはよいところがある」と認識しており、学校、家庭、地域が一体となって個に寄り添う支援がなされていると考えられます。学びにかかわる質問について、諦めずにいろいろな方法を考えたり、自分の考えを交流したりするなど、主体的・対話的な授業が多くなっています。また、地域の行事やボランティア活動に参加する児童生徒は非常に多く、地域との関わりは深いです。家庭生活に関して、「家で勉強や読書をしている」「家でテレビやビデオ・DVDを見たり、ゲームをしたり、インターネットをしたりしている」と回答した児童生徒が全国平均より多く、放課後は屋内で生活する児童生徒が多いと考えられます。これまでの調査とともに、本調査結果を今後の指導の改善を図る資料として活用していきます。

3 全国学力・学習状況調査の活用について

- ・本調査において、正答率が低い問題については、市全体で課題を共有し、全職員の共通理解をもとにして、日々の授業改善に取り組みます。
- ・各小中学校においては、これまでの全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させるとともに、主体的・対話的で深い学びが授業の中で行われる学習をさらに充実させます。また、「わかる、できる授業」となるように岐阜県が重視している「3つの見届ける(実態を見届ける・学習状況を見届ける・定着状況を見届ける)」を確実に図る授業を目指して取り組んでいきます。
- ・引き続き、『家庭生活の5つのポイント』を活用して、保護者に「学力」と「児童生徒の意識・生活面」とのつながりについて伝えていきます。「①生活リズムを整える ②時間を活用する ③ふれあう時間をつくる ④よさを認め励ます ⑤地域との関わりを深める」ことで、家庭における基本的な学習習慣や生活習慣の確立を図ります。